

2016年6月4日（土）－ 6月19日（日）銀座 ポーラ ミュージアム アネックスにて

ついきどうき

ぎよくせんどう

鉦起銅器 玉川堂 200周年記念企画 東京初の展覧会

「玉川堂 200年展 ～ 打つ。時を打つ。」



Photo : Yoshiaki Tsutui



Photo : Yoshiaki Tsutui

新潟県燕三条にて、鉦起銅器の技を継承する玉川堂は、創業200周年を記念して「玉川堂 200年展 ～ 打つ。時を打つ。」を2016年6月4日（土）から6月19日（日）まで、ポーラ ミュージアム アネックスにて開催いたします。

展覧会では、1816年創業時から2016年最新作に至る、玉川堂の代表作20余点を一堂に展示いたします。空間構成及び新作の木目金（もくめがね）鉦起和器「MOON（ムーン）」を、スペースコンポーザーの谷川じゅんじ（JTQ Inc. CEO）が手がけました。

木目金とは江戸時代から伝わる日本独自の特殊な金属技法で、色の異なる金属板を幾重にも重ね合わせ、その表面を削ることで美しい木目の模様を作り、時間をかけて打ち延ばすものです。ただひたすら塊を打ち延ばし、地金と格闘する鍛金師の喜びや苦しみ が表現される技法であるともいえます。

職人が金鉦で銅器を「打つ」作業と共に、時を重ねること（「時を打つ」）で、より美しさを増す玉川堂の銅器は、出会った瞬間から美しい「時」を刻み始め、色合いが深まり、艶を増し、限らない未来へ向け、子へ孫へ受け継がれていきます。本展で、歴史や伝統を楽しむという過去に価値を置くのではなく、時と共に成長するという未来に価値を置き、「打つ。時を打つ。」という言葉で、玉川堂の銅器の持つ魅力を表現します。その作品群から、鉦音響く銅の器の生命力を感じていただき、200年後の輝く姿を思い描いていただければ幸いです。

玉川堂200年展 ～ 打つ。時を打つ。特別記念映像：<https://vimeo.com/166002004>

会期中にはギャラリートークなど様々な関連イベントを予定しています。2P目をご参照ください。

展覧会概要

展覧会名：玉川堂 200 年展 ～ 打つ。時を打つ。

会 期：2016年6月4日（土）から6月19日（日）

[16日間] ※会期中無休

開館時間：11:00 - 20:00（入場は19:30まで）

入場料：無料

会 場：ポーラ ミュージアム アネックス

〒104-0061 中央区銀座1-7-7 ポーラ銀座ビル3階

<http://www.po-holdings.co.jp/m-annex/>

アクセス：東京メトロ 銀座一丁目駅 7番出口すぐ

東京メトロ 銀座駅 A9番出口から徒歩6分

JR 有楽町駅 京橋口から徒歩5分

会場構成：谷川じゅんじ/JTQ

映像：丸野優/GLMV

グラフィック：石橋剛

写真：筒井義昭



会場イメージ

「玉川堂 200年展 ～ 打つ。時を打つ。」関連イベント

- 会期中毎日 製作実演。無形文化財指定の鋤起銅器の技術をご覧ください。
- 限定商品販売 特別限定商品の急須、茶筒、酒器、図録『鋤起銅器』などを販売致します。
- 6月4日（土） 作品解説（14:00～）
- 6月5日（日） 小皿製作体験（13:00～、15:00～）各回6名様、体験料金1500円、先着順。
- 6月11日（土） JTQ 谷川じゅんじ × 玉川堂 七代目 玉川基行 / ギャラリートーク（14:00～）
- 6月12日（日） 堀口珈琲 鋤起銅器のコーヒーポットを使ったドリップ / コーヒーの試飲（13:00～18:00）
- 6月18日（土） 小皿製作体験（13:00～、15:00～）各回6名様、体験料金1500円 / 作品解説（14:00～）
- 6月19日（日） 静岡カネジウ農園 茶師によるおいしいお茶のいれ方 / お茶の試飲（13:00～18:00）

玉川堂について

世界有数の金属加工産地、燕。そのルーツは、江戸時代初期、和釘づくりが始まったことに端を発します。江戸時代後期、仙台の渡り職人が燕に鋤起銅器の製法を伝え、1816年（文化13年）、玉川堂の祖、玉川寛兵衛によって受け継がれました。近郊の弥彦山から素材となる優良な銅が産出されていたため、燕では銅器製造が発展しました。日常銅器（鍋、釜、茶罐やかん）の製造から、次第に工芸品的要素を加え、1873年（明治6年）、日本が初めて参加した万国博覧会、ウィーン万国博覧会に出品し、戦前までに約30回、内外博覧会に出品受賞しました。1894年（明治27年）には明治天皇御大婚25周年奉祝に一輪花瓶を献上したことをきっかけに、皇室の御慶事には玉川堂製品の献上が習わしとなりました。



左より： フィラデルフィア万国博覧会 最高賞受賞 賞状、初代玉川寛兵衛作『罌葉鐘つばやかん』（江戸時代後期）
三代玉川寛平作『飾香炉金象嵌』（明治23年）、四代玉川寛平作『花瓶古代瓦金銀象嵌』（大正時代）

鋤起銅器とは

鋤起銅器は、一枚の銅板を、火で熱して金鋤で打ち伸ばし、打ち縮めて、継ぎ目のない器物を造る、特殊な技法です。一度叩くと銅は硬くなるため、製作途中に火炉の中に銅器を入れ柔らかくしながら成形した後、玉川堂だけが有する独自の着色を施し、職人の幾つもの技が織り込まれた鋤起銅器が完成します。製作には 様々な道具を使用し、例えば、湯沸を製作するためには数十種類の烏口（鉄棒）、金鋤を使用します。縮めるのも丸めるのも職人の勘一つで、その寸法はすべて職人の頭の中にあります。現在、新潟県より「新潟県無形文化財」、文化庁より「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」、経済産業大臣（旧通商産業大臣）より「伝統的工芸品」に指定され、国内唯一の鋤起銅器産地の発展に努力しています。

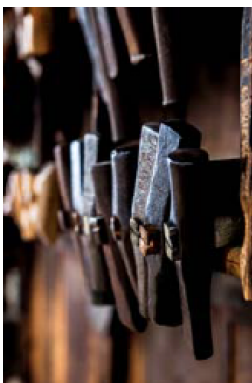


Photo : Yoshiaki Tsutui



Photo:Jingu Ooki



Photo:Jingu Ooki

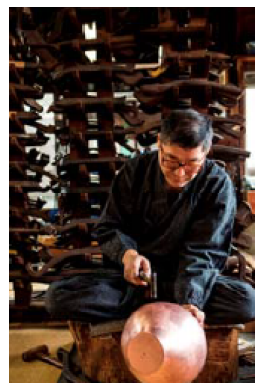


Photo : Yoshiaki Tsutui

玉川堂 七代目 玉川 基行

二百年に及ぶ父祖の業を継承し、地場産業として国内唯一の鋳起銅器産地の発展に尽くしています。
2008年、新潟県燕市の玉川堂の店舗・土蔵・鍛金場・雁木を、国の「登録有形文化財（建造物）」に登録。
2014年、南青山に東京のフラッグシップとなる「玉川堂 青山店」をオープン。



玉川 基行



玉川堂燕本店

Photo:Jingu Ooki

2016年-2017年 玉川堂200周年記念事業の予定

■図録『鋳起銅器』発刊。歴史や技術、職人、道具などを128ページに渡りご紹介しています。税込2000円

■玉川堂創業200周年展（現在開催中）

会期：2016年4月16日（土）～ 5月22日（日）

場所：燕市産業史料館 新潟県燕市大曲4330-1

開館時間：9:00—16:30

休館日：5月9日（月）、16日（月）

入館料：大人300円、小人100円

■玉川堂 銀座店

2017年4月 開店予定

プレスに関するお問合せ先： HOW INC. MAIL:info@how-pr.co.jp TEL:03-5414-6405 FAX:03-5414-6406
東京都港区南青山2-22-14 フォンテ青山401

展覧会に関する読者お問合せ先：ポーラ ミュージアム アネックス TEL:03-5777-8600（ハローダイヤル）

玉川堂に関する読者お問合せ先：玉川堂 TEL:0256-62-2015 <http://www.gyokusendo.com>